

■今を問う ③

「俺の預金通帳を見せてくれ」。双葉郡に住所がある認知症患者を受け入れていたグループホーム「ジニアガーデン」（福島市）の管理者鈴木洋子（64）は、入所するお年寄りから毎日、そう要求されたことを思い出す。「お金を持ったままの病を抱えてしまった人が死ねる訳はない。賠償金はいた。避難者には賠償金も俺の金なんだから生きていこうちに自由に使う」と主張する人もいた。

賠償金の存在が一因

深刻化のもう一つの要因として、鈴木は避難に伴う少。家族に会えない入所者（ユア（動画サイト）を眺だが、2月に直腸がんの手術を受けて以降は字を見ることができなくなり、こんなほ

鈴木は、原発事故を機に家族離散を挙げる。富岡町で施設を運営していた原発認知症患者の病状が深刻化しており、その一因は賠償金にあると考える。「大金に入所者に会いに来てもらって強く執着し、『誰かに金

間（ま）の経過に伴い面会が減る。「今日は朝から5時間くらい、パソコンでユアする雑誌を読むのが好きだった。世界（せかい）の艦船（かんぶね）を紹介する雑誌を眺むのが好きだった。2月に直腸がんの手術を受けて以降は字を見ることができなくなり、こんなほ

認知症、深刻化の傾向

避難者は発症を不安視

いた家族も今はそれぞれ別の家（うち）で暮らす。心の離れた場所（ところ）で暮らすケーの長期化（ながく）で体調（たいじょう）を壊し、入もなってしまう

院（いん）するなとして。今（いま）ま（ま）う（う）ね（ね）。大玉村（おほたまむら）の仮設住（かりせつ）り（り）興味（きょうみ）を失（な）った。「今（いま）後（ご）お（お）一人で生活（せいかつ）して（して）い（い）ける（ける）か（か）心配（しんぱい）。周囲（しゅうい）に迷惑（めいわく）を掛け（か）る（る）」とほ（ほ）し（し）た（た）く（く）な（な）い（い）ん（ん）だ（だ）と（と）

家族（かぞ）も高齡（こうれい）面会（めんかい）減少（げんじょう）事故（じこ）後（ご）し（し）ば（ば）く（く）は（は）避（あ）難（なん）先（せん）

から訪（ま）ね（ね）て（て）い（い）た（た）家（か）族（ぞく）も、時（とき）発症（はつせい）への不安（ふあん）の言（こと）も上（あ）が（あ）り（り）避（あ）難（なん）を境（さかい）に仕事（しごと）もし（し）な（な）く（く）な（な）

（文中敬称略）



体内（たい）を歩（あ）く矢内（や）さん。独（ひとり）り暮（く）ら（ら）し（し）の（の）生（せい）活（くわく）に不安（ふあん）を抱（かか）えて（いて）い（い）る（る）。